

MANUAL
for
Contractors
冊子

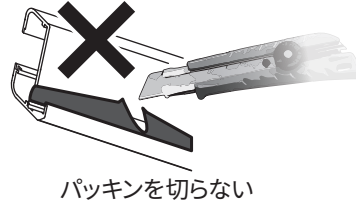
開きドア
DR・DKシリーズ
取付け要領書

vol. **09**

201908 01002-ANK-043-09



① 開梱



カッターで開梱する場合は耐切創手袋などを使用し、枠にキズをつけないよう慎重に行ってください。特にパッキンを切ってしまうよう注意してください。

3方枠用



■ 皿タッピング 4×16 または 4×12 (D6)

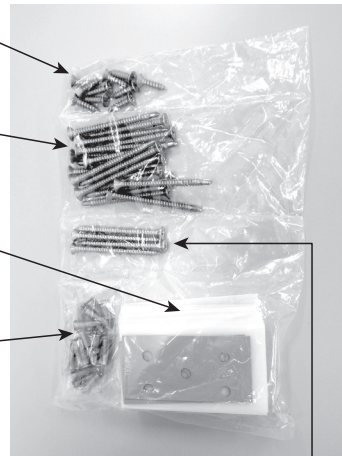
■ 皿ドリルネジ 4×50

■ ライナー及び 丁番調整ライナー

■ 皿ドリルネジ 4×16 (細目 D6)

■ スライド落とし受け坪 (両開きのみ)

4方枠用

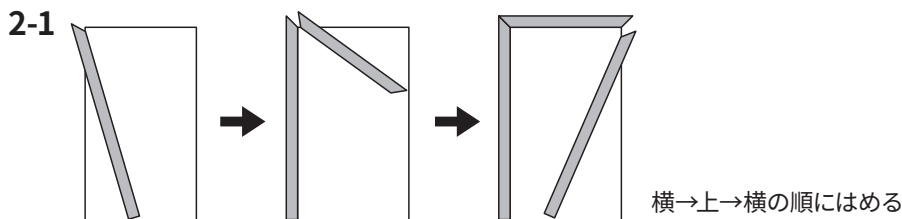


■ 皿プレスアンカー 4×50 または 4×38

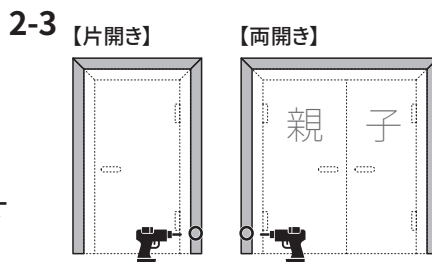
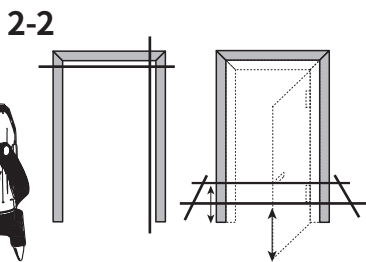
ドアチェック、ネジ等の取付け用金物は外枠に同梱されています。(混載便の場合はハンドル、錠も外枠に同梱されています。)



② チャンネル取付け ※チャンネルは必ずしも当社で用意しているわけではありません。



どちらか一方の縦側をはめてから上部、もう一方の縦側という順にチャンネルをパネルにはめ込みます。

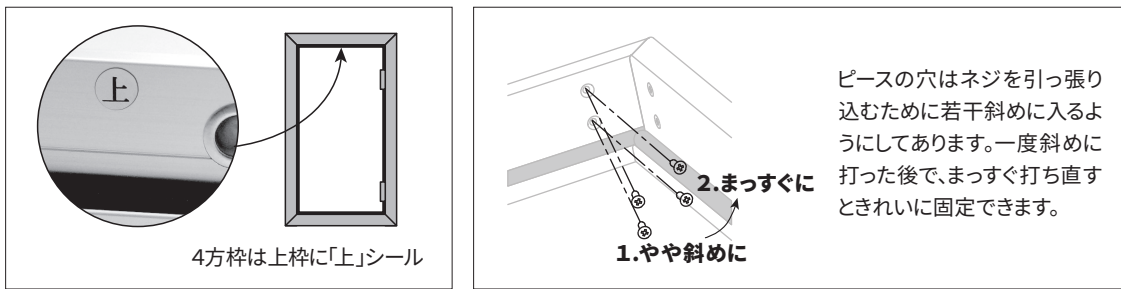
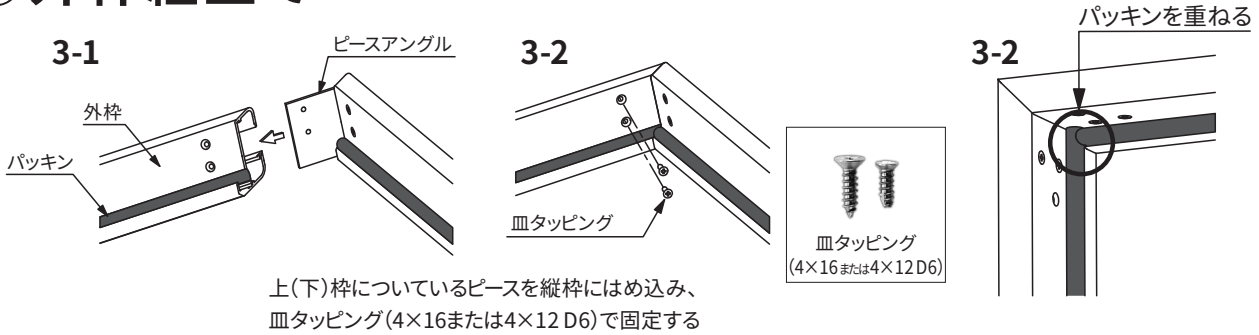


レーザーで水平を確認し、ヒンジ側のチャンネルの下部 (両開きの場合は親扉のヒンジ側) を皿ドリルネジ (4×16細目) で固定します。(このとき、ドアが開く位置のレベルも念のため確認してください。)

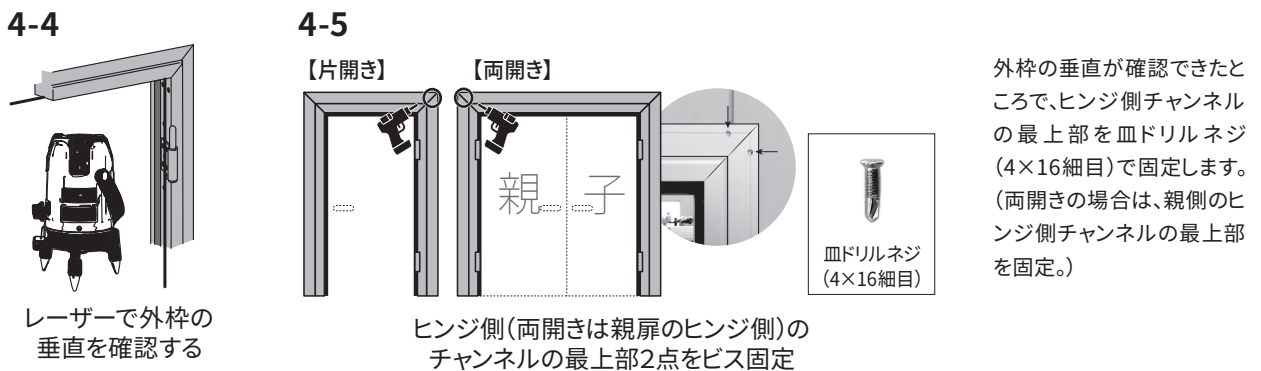
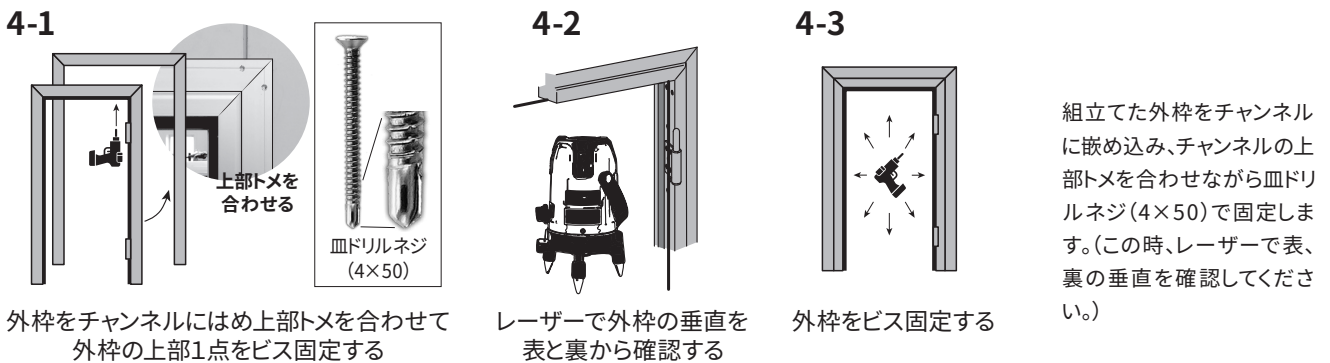
レーザーで水平を確認 ※開く位置のレベルも ヒンジ側のチャンネルの下部を固定



③ 外枠組立て



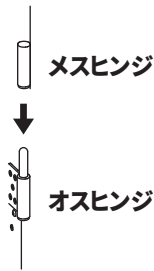
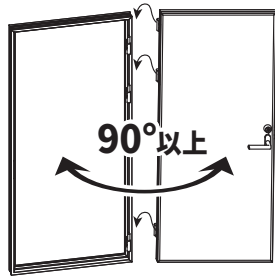
④ 外枠仮取付け





⑤扉吊り込み

5-1

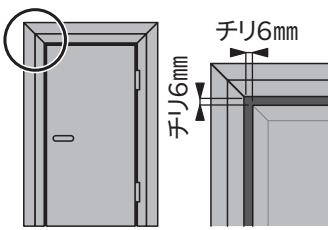


扉を90°以上開いた状態にして、扉のメスヒンジを外枠のオスヒンジに差し込みます。



⑥外枠本取付け

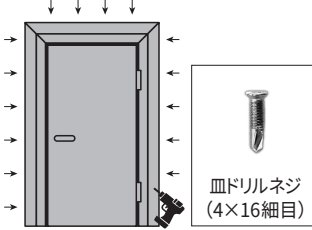
6-1



扉と外枠のチリを均一(6mm)に調整

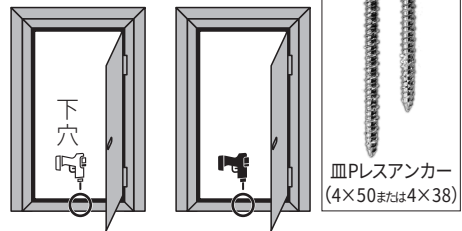
扉と外枠とのチリが6mmになるように調整し、チャンネルの残りのビス穴に皿ドリルネジ(4×16細目)を打ち込み、固定します。

6-2



チャンネルをビス止め

6-3 【4方枠の場合】



コンクリ用キリ3.5φで下穴を開けビスで固定

4方枠の場合は、ビス穴に合わせてコンクリ用キリ3.5φで下穴を開けた後、プレスアンカー(4×50または4×30)で固定します。

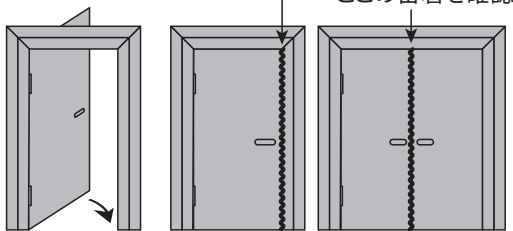


⑦確認と微調整

■パッキンの密着 ■ハンドル周りの動き ■スライド落しの設置(両開き)

■パッキンの密着

7-1-1



パッキンの密着具合を確認 ※両開きは召し枠部

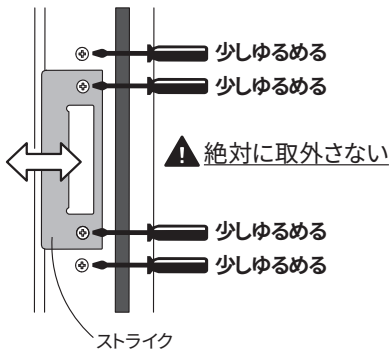
扉の裏からパッキンの密着具合を確認します。両開きの場合は、召し枠部も確認してください。

パッキンの密着が悪い場合は、次のページの「パッキンがうまく密着しないとき」を参照してください。

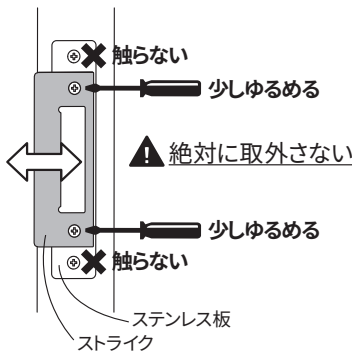
☒ パッキンがうまく密着しないとき

ストライク・調整ローラーをスライドさせてパッキンの密着を確保します。

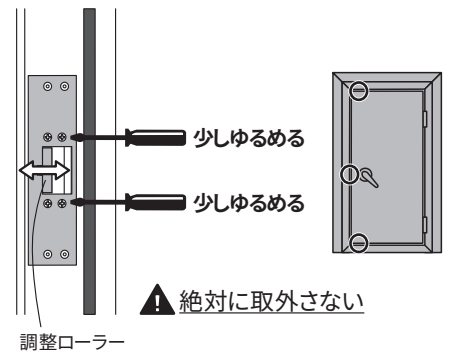
7-1-2 レバーハンドル・丸ノブの時のストライク



ステンレス板にストライクが取付けてある時(DKシリーズ)



7-1-3 グレモンハンドルの時のストライク



密着していない場合は、ストライクのネジを緩め、位置を動かして調整します。(この際、丸頭のネジは絶対に外さないでください。)

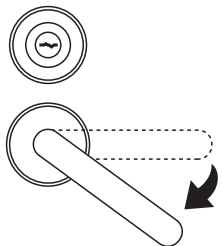
グレモンの場合は、上下枠とストライクのローラー調整受けのネジを緩め、ローラーを移動させて調整します。

■ ハンドル周りの動き

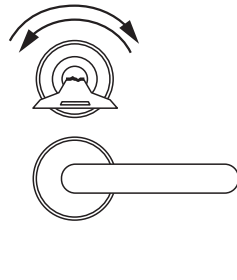
ハンドルとラッチ、錠とデットボルトがスムーズに動くか確認します。

7-2

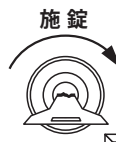
開錠中



ハンドルがスムーズに動くか
※ ハンドル形状は異なる場合があります。

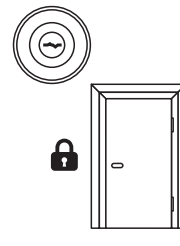


錠がスムーズに動くか

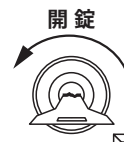


正常に施錠されるか

施錠中



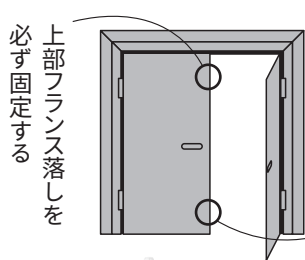
施錠中に鍵を抜いても扉は施錠されたままか



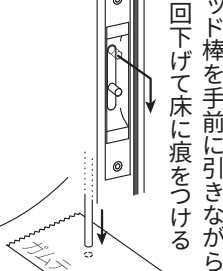
正常に解錠されるか

■ スライド落しの設置(両開きの場合)

7-3-1



7-3-2



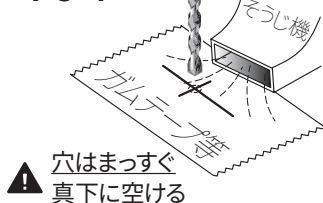
7-3-3



3方枠両開きのスライド落しは、扉を閉めた状態でロッド棒を下げ、床にマーキングします。上部フランス落しは必ず固定してください)

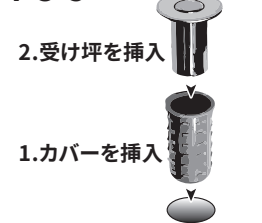
受け坪の下穴の径は14.5φです。まずマーキングの中心に小さめのキリで穴を開け、さらに14.5φのキリで穴を開けます。(初めから14.5φの下穴を開けても構いません)

7-3-4



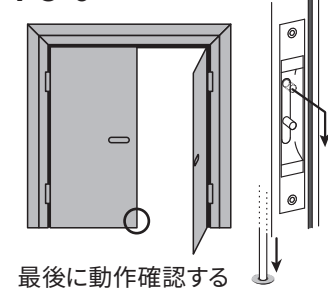
小さめのキリで下穴を空け
14.5φのキリで穴を空ける

7-3-5



破片をきれいに取り除いて
カバーと受け坪を挿入する

7-3-6



掃除機等で破片を取り除いてカバーを挿入し、受け坪をカバーに挿入します。

最後に必ず動作確認をしてください。スライド落しはつまみを引っ張ってから動かします。

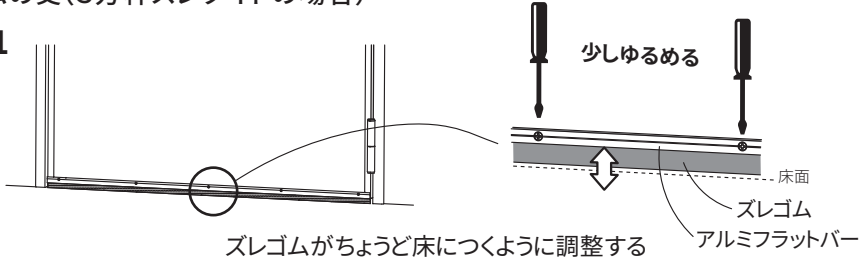


⑧ オプションの調整

- ズレゴムの丈
- ドアボトムの密着
- ドアチェックの設置
- 順位調整器の調整

■ズレゴムの丈(三方枠ステタイトの場合)

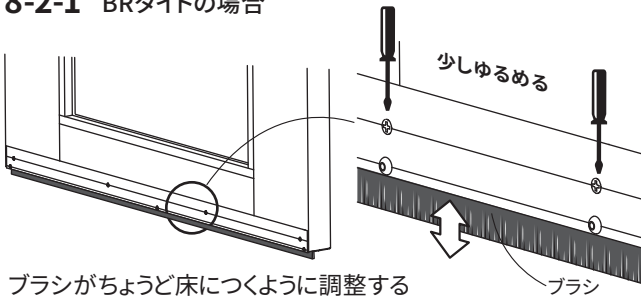
8-1-1



ズレゴムが床についていない場合は、フラットバーを固定しているネジを緩め、ズレゴムを下に引っ張って調整します。

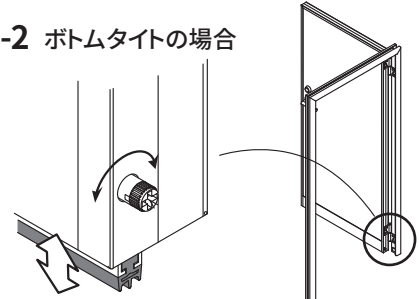
■ドアボトムの丈

8-2-1 BRタイトの場合



ブラシが床についていない場合は、扉下部のネジを緩め、ブラシを上下に動かし高さを調整します。

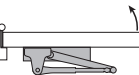
8-2-2 ボトムタイトの場合



ボトムゴムの出が悪いときはドライバーで戸尻のボタンを回し、ゴムが床に付くまで調整してください。

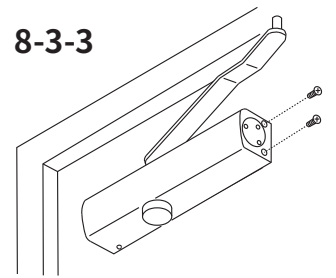
■ドアチェックの設置 パラレルタイプ(裏付け)の場合

8-3-1

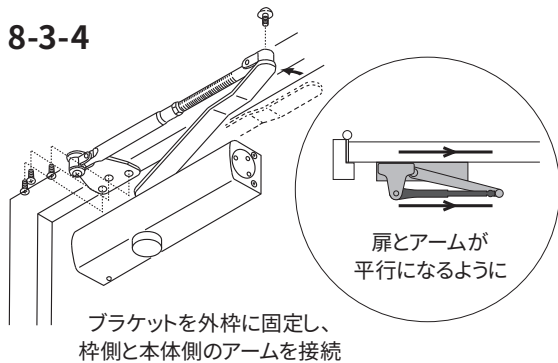


8-3-2

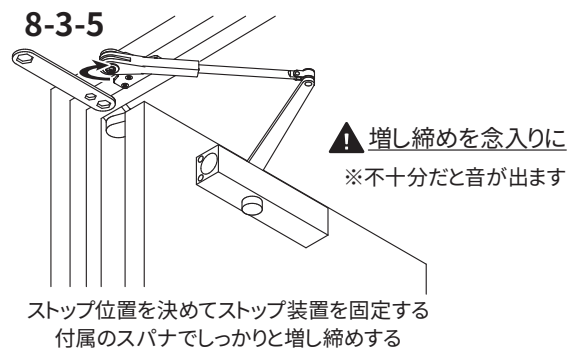
8-3-3



8-3-4

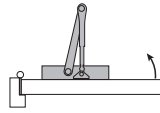


8-3-5

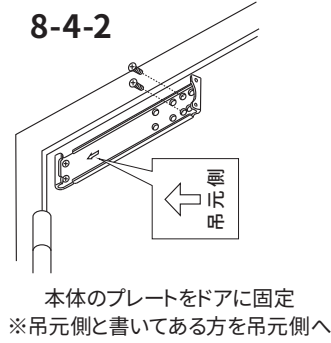


■ドアチェックの設置 標準タイプ(表付け)の場合

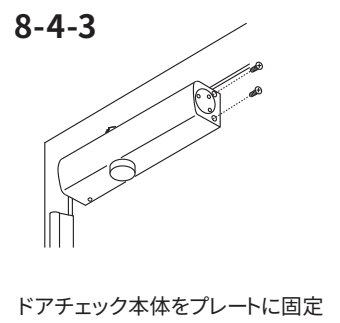
8-4-1



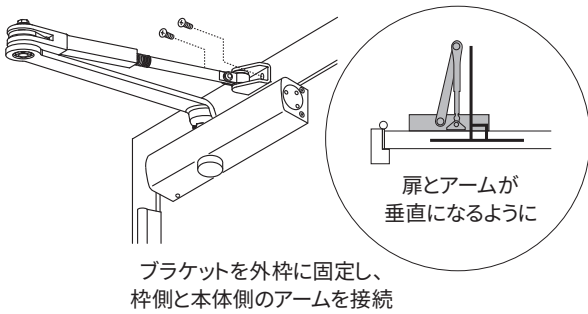
8-4-2



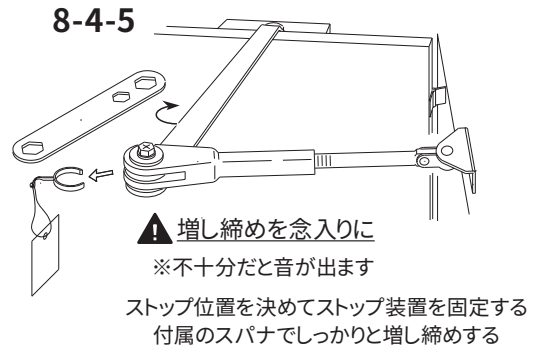
8-4-3



8-4-4



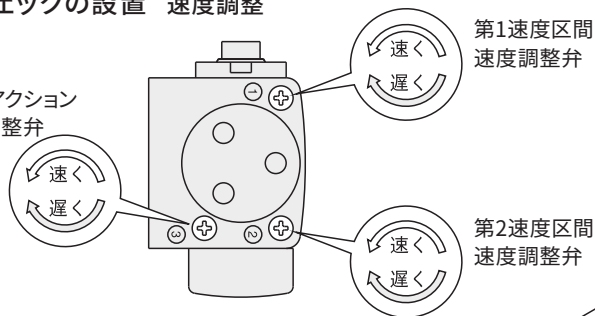
8-4-5



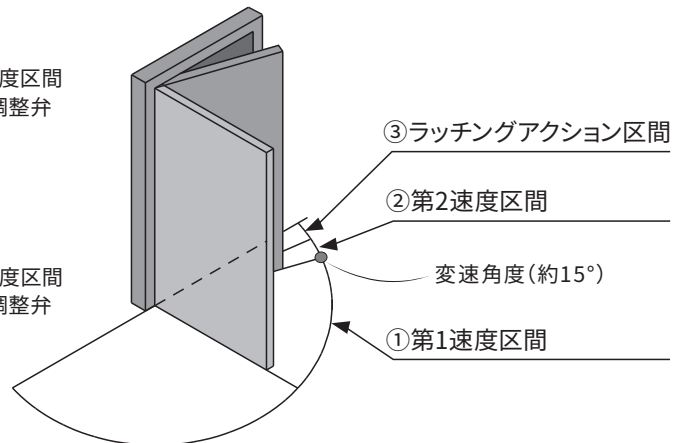
■ドアチェックの設置 速度調整

8-4-1

ラッチングアクション
区間速度調整弁

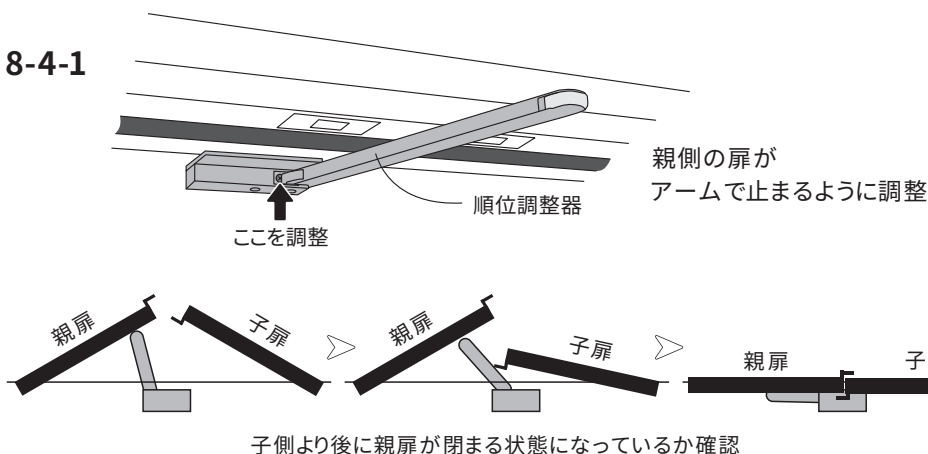


速度調整ネジを回転させドアの閉じ速度を調整します。
適正速度は、閉じ始めから閉じ終わりまで4~6秒くらいです。



■順位調整器の調整(両開きで順位調整器がつく場合)

8-4-1



両開き扉には順位調整器
が付く場合があります。順
位調整器は、出荷時は調
整されていません。

アームの根元のネジを回
し、親側の扉がアームに
当たって止まる位置にな
るよう調整してください。

最後に、子側の扉を開け
た場合でも、必ず親扉が
後に閉まる状態になっ
ているか確認してください。



①開梱



②CH取付け



③外枠組立て



④外枠仮取付け



⑤扉吊り込み



⑥外枠本取付け



⑦確認と微調整



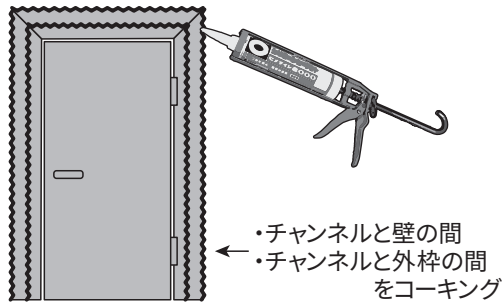
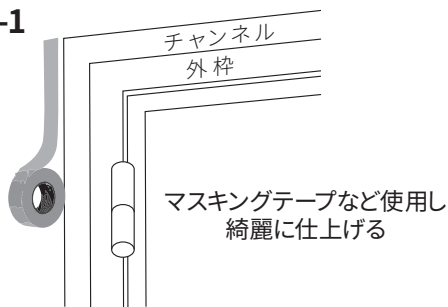
⑧オプション調整



⑨仕上げ

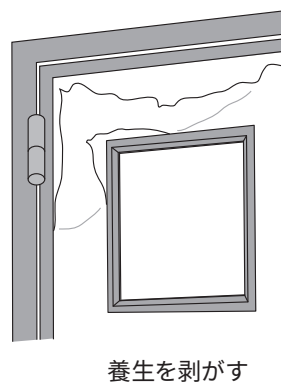
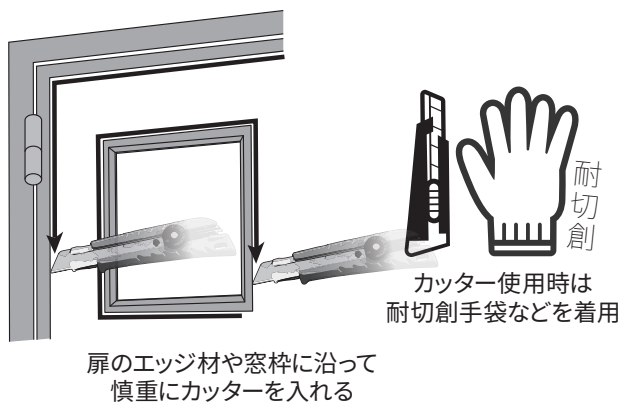
⑨仕上げ

9-1



チャンネルと壁パネル、外枠とチャンネルの間にコーキングを打ちます。(指摘を受けやすい箇所ですので、必要に応じてマスキングテープを貼るなどしてください)

9-2



扉のエッジ材に沿ってカッターを入れ、養生を剥がします。窓が付く場合は、窓枠に沿ってカッターを入れてください。(カッターを使用する際は、必ず切創手袋などを着用してください。)

お疲れさまでした!

▲ 注意事項

- ① 施工する前のドア、間枠材は直射日光の当たらない場所へ保管して下さい。保管の際は、長時間の横積み状態はなるべく避けて下さい。ドアが反ってしまう恐れがあります。
- ② ドアに物を立て掛けたり、ドアと枠の間に物を入れたりしないでください。ケガをしたり、ドアに障害が発生する恐れがあります。
- ③ ハンドルにぶらさがったり、足場にしたり、物を掛けたりしないでください。危険ですし、錠前が正常に機能しなくなる恐れがあります。
- ④ 錠前は分解、改造しないでください。中の部品が飛び出して思わぬケガをしたり、正しく組立て直すことが出来なくなることがあります。
- ⑤ デッドボルトを出したままドアの開閉をしないでください。デッドボルトの突起が身体に当たる危険があるばかりでなく、ストライクや枠を傷めます。
- ⑥ ドアクローザは、ドアを自動的に閉じるためのもので、油圧によりゆっくり閉じる構造になっています。季節の温度変化等により、ドアの閉じる速度が変わることがあり、極端に速度が速くなるとケガをすることがあります。ドアの閉じる速度は、調整弁によりコントロールすることができますので、調整してください。
- ⑦ ドアクローザは分解、改造しないでください。中の部品が飛び出して思わぬケガをしたり、正しく組立て直すことが出来なくなります。